

## 25 血液検査で 何が分かるのでしょうか？ -その①

**A** 肝臓は、自覚症状があらわれにくい「沈黙の臓器」と言われています。肝臓の状態を知るために、さまざまな項目を確認していきます。

### ● 血液検査で何が分かるの？

|       |   |
|-------|---|
| HBs抗原 | 陽性  |
|       | B型肝炎ウイルスに感染している   |
| HCV抗体 | 陽性  |
|       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在C型肝炎ウイルスに感染している</li> <li>・過去にC型肝炎ウイルスに感染したが治った</li> </ul> |

いずれの場合も、精密検査で詳しくウイルスの状態を調べる必要があります。

### 肝細胞の状態をチェック

|          |                              |
|----------|------------------------------|
| AST(GOT) | 基準値 13~30 U/L                |
| ALT(GPT) | 基準値 男性:10~42 U/L 女性:7~23 U/L |

肝臓の細胞に含まれている酵素で、肝細胞が破壊されると血液中に出てきます。肝炎の程度を反映し、炎症の進行に伴い値が上昇します。ASTは、心、肺、肝、腎、筋肉、赤血球に分布し、これらの臓器障害により血中に逸脱し上昇します。ALTは肝の細胞質に多く含まれ、肝特異性が高く、肝障害で血中に逸脱し上昇します。

## 血液検査について

## 肝細胞の障害・胆汁の流れをチェック

|   |                              |
|---|------------------------------|
| γGTP  | 基準値 男性:13~64 U/L 女性:9~32 U/L |
| <p>肝臓で作られる酵素でたんぱく質の分解や合成をします。肝臓や胆管の細胞や胆汁中に存在します。肝臓病により肝機能が低下して胆汁の流れが悪くなったり胆管細胞が壊れるとこの値は上昇します。また、アルコール多飲や薬物などが原因で過剰に作られても高くなります。</p> |                              |

|  |                |
|--|----------------|
| ALP<br>(アルカリフォスファターゼ)  | 基準値 38~113 U/L |
| <p>肝臓や腎臓、腸粘膜、骨などで作られる酵素で、肝臓で処理されて胆汁中に排泄されます。胆石や胆管炎、胆管がんなどで胆管がふさがれて胆汁の流れが悪くなったり(胆汁うっ滞)、肝臓の機能が低下したりすると、胆汁中のALPが逆流して血液中に流れ込み、検査値が上昇します。</p> |                |

|  |                   |
|--|-------------------|
| T-Bil(総ビリルビン)  | 基準値 0.4~1.5 mg/dL |
| <p>古くなった赤血球が壊れるときに作られる色素で黄疸の原因となります。胆汁の流れが妨げられたり、肝臓の働きが低下したりすると高くなります。</p> |                   |

※基準値はJCCLS(日本臨床検査標準協議会)共用基準範囲を記載してありますが、検査機器や検査機関によって異なることがあります。

